

# AMDA

## 多様性の共存

# ジャーナル

2017年7月25日 VOL.40 第282号 定価550円  
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail:member@amda.or.jp  
 郵便振替:01250-2-40709 □口座名:特定非営利活動法人アムダ

2017年  
夏号

夏

救える命があればどこへでも

## 連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第13回 おかやまコープ理事長 平田 昌三様

認定 特定非営利活動法人アムダ (AMDA)  
<http://amda.or.jp/>  
 認定 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構  
<http://www.amda-minds.org/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター  
<http://amda-imic.com/>  
 AMDA 兵庫  
<http://amda-hyogo.com/>

### 大切な組合員との信頼

**AMDA** 本日はお忙しい中、ありがとうございます。おかやまコープ様とは2007年10月、緊急救援に関する協定を締結し、今年で10年の節目を迎えました。

**平田** AMDA との関わりは組合員の提案がきっかけです。ユニセフ(国際児童基金)とは1984年からともに活動していますが、岡山県の中で国際貢献をしている団体とも手を携えて活動をしたらどうか、との声があり、AMDA と連携の運びとなりました。協定前には組合員とAMDAを知るための学習会を重ねました。おかやまコープの国際貢献のスローガンである「おもいやり 地球市民のパスポート」に沿った運動と言えます。

**AMDA** 協定締結と同時に「AMDA 基金」を設け、毎年10月を「募金月間」としてポスターまで作っていただきました。

**平田** 宅配の商品注文書、店舗内の募金箱で受け付けています。集まった寄付金はすべて正確に使い道を知



(インタビュー内の敬称は省略させていただきました)

らせており、おかやまコープの募金活動は組合員の信頼も厚いと思っています。

### 心を許し合う関係構築

**AMDA** おかやまコープ様は東日本大震災でも復興に向けて息の長い活動を続けられています。

**平田** 「支援を受ける側にもプライドがある」とAMDAの菅波茂代表が話されていますが、私たちが良かれと思うことでも相手には負担になることもある。机上の考えでなく現地で直接、住民とふれあう中で体感することが大切ですね。お互いの心を許し合う人間関係の構築が支援の根底にはなくてはならないと考えています。今も強く印象に残る出来事があります。おかやまコープのパートの皆さんが東北の被災地に送る支援物資に自主的にメッセージを寄せ書きしてくださったのです。それを見た瞬間、私は思わず震えました。

**AMDA** 皆さんはすばらしいスピリットをお持ちですね。

**平田** (海外で長期的な社会開発事業に取り組む)2007年にAMDAから独立したAMDA-Minds:AMDA社会開発機構(岡山市北区蕃山町)の活躍も素晴らしいですね。支援のお礼としてザンビアの子どもの絵を組合員に届けていただきました。組合員は大変感激し、ファイルにして大切に保存しています。ホンジュラス



に行かせていただきましたが、腕輪を現地の子どもと母親に手渡し、喜んでもらった。心の交流が出来たと実感した瞬間でした。

### 支援者の思い受け止めて

**AMDA** AMDAの活動をよく理解していただき、ありがとうございます。おかやまコープ様は貢献マインドが非常に高い団体と思っています。AMDAと共通する部分も多くあるのではないかと感じています。今後のAMDAのあり方にご提案を頂ければ幸いです。

**平田** おかやまコープにも言えることですが、組織が大きくなると結果だけを伝えることになりかねません。初心に戻り、支援者1人1人と向き合い、思いを受け止めることが大切なのではないかと思っています。

**AMDA** 貴重なご指摘をありがとうございます。一層の努力を重ねてまいります。引き続きご支援をよろしくお願い致します。

## 神戸で初の「AMDA の集い in 関西」を開催しました



↑ 押谷看護師による自身の活動のご紹介  
↓ 参加者全員で輪になり意見交換を行う様子



AMDA と AMDA 兵庫共催の「AMDA の集い in 関西」が7月1日、神戸市の毎日新聞社神戸支局セミナーホールで開かれました。

「AMDA と一緒に被災者救援の第一歩を踏み出しませんか」と呼び掛けての初めての開催。神戸市民ら42人が参加し、「南海トラフ地震と国内外の大規模災害に備えた取り組み」と題して講演や意見交換が行われました。

AMDA 緊急救援ネットワークに登録している押谷晴美看護師が地震被害のあったネパールや熊本県、ハリケーン被害のハイチでの活動を紹介。ローカルイニシアシブ（現地主導）や自ら体験することの大切さを強調しました。

AMDA 本部職員は南海トラフ地震に備えた準備状況を説明。AMDA 兵庫の江口貴博理事長がこれまでの取り組みを紹介しました。続いて質疑応答が行われ、参加者からは「AMDA の活動をもっとPRしてほしい」との要望があり、主催者側は「これからも各地へ出向いて顔と顔が見える関係を築きたい」と答えるなど活発な討議が行われました。

AMDA 兵庫は2014年、グループ団体として独立。これまで、AMDA ネパール子ども病院の支援などを行なっています。

## 菅波代表がシンガポールで倉敷南高校生に講演をしました

6月22日、岡山県立倉敷南高校の生徒32人は修学旅行先のシンガポールでAMDA グループの菅波茂代表から講演を聞きました。生徒の質問に答える形で行われ、菅波代表はAMDAの活動や海外緊急支援の内容、現在の世界の情勢などについて丁寧に答えました。

生徒からAMDAに御礼のお手紙をいただきましたのでご紹介します。



倉敷南高校の皆様の記念撮影 →

◆困っている人がいれば、言葉だけでなく体に触れることで「近くに助けてくれる人がいる」という安心感を持つことが出来るということだった。学んだことを活かしていきたい。

◆医療の道に進みたいという気持ちが強くなった。人間として温かさを持った人になりたい。

◆「ありがとう」という言葉はどんな言語でも伝わるものだと思った。使ってみると、どの人も笑顔になってくれた。この講演で人としての在り方を学ぶことができた。

◆勉学で上位にいることは大切かもしれないが、下位にいても必死に努力し、頑張っている人ほど自分の意志をしっかり持っていることを改めて感じた。努力の大切さを忘れず、頑張りたい。

## 熊本県益城町でボランティア

AMDA は中外製薬様とともに、6月30日から2日間、熊本地震で大きな被害を受けた熊本県益城町で、農家の作業を手伝うボランティアを行いました。

AMDA 本部から3人とAMDA 社会開発機構から1人、中外製薬から30人が参加。集荷センター2カ所で5軒の農家と一緒にカボチャの収穫と出荷作業に汗を流しました。農家の方は今も仮



ボランティア活動の様子

設住宅などで暮らしており、ボランティアの手伝いに大喜びでした。

中外製薬様は昨年にも避難所となった益城町の広安小学校で草取りをしたり、町民グラウンドの整備をするなどのボランティアに取り組んでいます。



昔ながらの田植え体験を楽しむ参加者



アヒル放鳥の様子

AMDA フードプログラムの一環として、有機無農薬栽培で稲作に取り組んでいる新庄村のAMDA連携野土路農場で6月3日、田植え祭が行われました。農場はアジアへの有機農業普及を目指すAMDAが、新庄村と連携して2011年から運営しています。

この日、JR岡山駅からバスで現地に到着した参加者12人は早速、田植えに挑戦。7アールの水田に入り、コシヒカリのポット苗を約1時間かけ、横に張った糸の目印に植えていきました。

参加者の大半は初めての体験でしたが、慣れるに伴って手際よく処理していました。尾道市からお母さんと一緒に参加した小学2年生の男の子は「上手にできたよ」と笑顔を見せていました。

続いて害虫駆除に役立つ生後3日ほどのアヒル約100匹を次々と水田に放ちました。子どもたちは「かわいい」「早く大きくなってね」と歓声を上げていました。地元につながる新庄田植え唄と踊りを見学した後、地元農家の手づくり料理に舌鼓を打ちました。

10月の収穫期には稲刈り体験が行われる予定です。

## 「AMDA 命を救うラジオ」が始まっています！

RSK(山陽放送)ラジオ番組「朝耳らじお」内で、「AMDA 命を救うラジオ」が毎週火曜日8時25分頃～約6分間の放送で始まっています。

毎週火曜日を次の4つのテーマで、各分野から様々な皆様にお話いただきます。

- ・被災地レポート
- ・南海トラフ災害対応プラットフォーム
- ・西のジュネーブ東の岡山
- ・AMDAの活動

国内外の様々な協力団体・医療機関の方々にご出演いただき、命を救う活動への取り組みを語っていただき、又AMDAスタッフも活動を紹介しています。RSKラジオホームページからでもお聞きいただけます。

ぜひお聞きください！

## 箏曲グループ「絃伶会」 発足40年 記念演奏会

岡山県赤磐市で発足した箏曲グループ「<sup>げんれい</sup>絃伶会」(根津章伶会長)の発足40年記念演奏会が6月4日、同市下市の中央公民館で開催されました。根津会長はAMDA鎌倉クラブのクラブ長も務めていただいております。演奏会では会場にAMDAへの支援を呼び掛ける募金箱を設置。入場者から寄せられた募金をご寄付いただきました。

絃伶会は1978年、同公民館の講座としてスタート。講師を務めていた根津会長が92年、同市から鎌倉市に転居した後も講座生だった赤磐市民約30人が活動を続けています。

記念演奏会には根津会長や、現地で立ち上げた「鎌倉絃伶会」の会員4人も参加。赤磐市内の尺八や日本舞踊、唄などのグループも賛助出演し、総勢約60人で9曲を演奏しました。

古墳時代の地元の伝説を基にしたオリジナル曲「吉備の稚愛」では、豪族の妻・稚媛をめぐる悲劇を披露し、優雅な調べを響かせました。

会場には300人を超す市民が詰めかけ、立ち見客であふれる盛況ぶりでした。



息の合った演奏をする絃伶会のメンバーたち

## スリランカ洪水緊急医療支援活動



↑ 被災地域の被害の様子

↓ 物資支援を行う菅原看護師



5月末にスリランカを襲ったモンスーンによる大雨で、同国の南西部では洪水や地滑りによる被害が相次いで発生。スリランカ災害管理センターによると、6月8日現在で死者212人、行方不明78人、負傷者150人。2万棟以上が損壊し、約60万人の生活に支障が出る大惨事となりました。

警察や軍の救助隊はボートで孤立した住民を救助したり、氾濫した川から逃げ出したワニの被害に注意を呼び掛けるなどしていますが、被害は今後も拡大すると予測されました。

AMDA スリランカ支部は、現地協力団体であるセントジョン救急サービス スリランカ及び現地テレビ局と協力し、洪水が起こった翌日の5月26日から活動を開始。AMDA 本部も緊急支援チームの派遣を決定し、6月7日に現地入りした調整員と看護師の2人はスリランカ支部のメンバーと合流し、巡回診療や支援物資の配布に当たりました。

緊急支援チームは最も被害が大きかったラトナプラ地区など3カ所を訪れ、患者を診察した結果、上気道感染症などの症状が見られました。通学用カバンや筆箱などの文房具、蚊帳を配布、医薬品の補充も行いました。住民からは「遠くからありがとう」と握手をしながら感謝の言葉をいただきました。

AMDA が派遣した2人は6月12日に帰国しましたが、スリランカ支部は引き続き活動。衛生環境の悪化による感染症の拡大など警戒を続けています。

### ■日本からの派遣者

菅原 久美子 / 看護師 / AMDA ER ネットワーク登録メンバー  
ニッティヤン・ヴィーラヴァーグ / 調整員 / AMDA 本部職員

## スリランカ紛争後復興支援平和構築活動

今夏もスリランカでの平和構築プログラムに AMDA 中学高校生会メンバーが参加します！

言語も宗教も異なる多民族社会で、少数派タミル人を重用し多数派のシンハラ人を統治させる「分割統治」による英国支配が100年以上続いた後、1948年に英連邦セイロンとして独立したスリランカ。それまで社会的に虐げられてきたシンハラ人の利益を尊重するシンハラ人優遇政策がとられることとなりました。そしてタミル人とシンハラ人との亀裂は決定的になり大規模な衝突が頻発しました。1983年から内戦が始まり、2002年2月ノルウェーの介入により一時停戦合意が成立。停戦期間を経て2009年5月内戦終結宣言が出されました。

AMDA は停戦合意がなされた翌年の2003年から2006年の間、スリランカ国内における宗教、民族の対立に対し、医療を通じて平和に寄与する「医療和平」プロジェクトを実施しました。

26年間の内戦の結果、スリランカ民族間の融和は国の大きな課題となりました。2003年に AMDA 中学高校生会のメンバーがスリランカを初めて訪れて以来、2009年の終戦後も断続的に交流プログラムを実施、各民族の同世代と交流し平和構築活動を行っています。

日本の高校生らのスリランカ訪問・交流は、内戦の中で育った10代の当事者間だけではしこりを克服しにくい中



昨年のスポーツ交流の様子

で、大いに潤滑油の役割を果たし、地元政府機関からも継続の要望が寄せられるものとなりました。

昨年に引き続き、今夏も AMDA 中学高校生会のメンバーがスリランカを訪問します。今年は、スリランカ中部州のマータレでのプログラムに参加します。

AMDA 中学高校生会は、同世代の各民族の学生と寝食を共にし、スポーツ交流や文化交流を行い、現地の学生たちとの対話・交流を深めていきます。

## 南海トラフ災害の準備進む

AMDA は未曾有の大被害が懸念される南海トラフ地震に備え、各自治体や病院との連携、被災が想定される地域の避難所での医療と救護の確保、支援物資の備蓄など準備を進めています。

5月30日には徳島県の阿南市と牟岐町、海陽町の1市2町との連携協力協定を締結しました。AMDA は徳島県、高知県の計10カ所に緊急医療支援チームを派遣する計画で順次、協定を結んでおり、今回の協定で派遣予定のすべての市町と協定を締結したことになります。

### 自衛隊演習訓練に参加

6月24日に実施された陸上自衛隊演習「南海レスキュー」の人員空輸訓練にAMDAなどが参加しました。

AMDA と南海トラフ災害をめぐる連携協定を結んでいる徳島県美馬市から高知県の須崎市、黒潮町までのルートで実施。須崎市に入ったスタッフはヘリポートから避難所、宿泊所までの道路状況、地震発生時の港の状況を市職員や消防職員の案内を受けて視察、今後の対応など意見交換しました。

ヘリで黒潮町入りしたAMDA職員は、陸路で現地に出

さらに、国立病院機構福山医療センター（広島県福山市）や川崎学園（岡山県倉敷市）、倉敷平成病院（同）、岡山県看護協会（岡山市）などと連携協定を結んでいます。今後も各医療機関と協定を進める予定です。自衛隊も南海トラフ地震を想定して様々な演習を実施。AMDAなどと連携し、医療班の空輸訓練なども重ねています。

緊急医療チームの医薬品や食糧品の事前備蓄、各市町の自主防災組織との連携は今後、早急に取り組む計画です。



自衛隊機に搭乗するAMDA職員

向いたスタッフと合流。市職員や消防団員と協議し、災害発生時の医療チームの到着するタイミング、黒潮町の医療ニーズ、防災訓練の実施時期などについてお互いが確認しました。宿泊施設や避難所の候補地、避難タワーも視察しました。

訓練当日は合同対策本部が設けられる総社市を出発点に美馬市のホウエツ病院を經由して高知県まで医師や看護師、調整員らを空輸する計画でしたが、総社市と美馬市までのヘリ空輸は天候不良のため中止となりました。

### 5月30日に連携協定を結んだ市長・町長からのメッセージ

#### \*阿南市・岩浅 嘉仁 市長

南海トラフ地震が発生した場合、阿南市面積の約16%の45km<sup>2</sup>が浸水し、甚大な被害が想定されています。地震・津波を想定しての災害医療訓練を実施していますが、このたびのAMDAとの協定は大規模災害に対する備えが一步前進したと実感しています。今後は、AMDAと情報交換や交流により連携を図ってまいりたいと考えています。



#### \*海陽町・前田 恵 町長

東日本大震災を教訓に避難路・避難タワー・備蓄倉庫の整備などを進めてまいりました。しかし、防災・減災の課題は山積しており、AMDAと協定を締結できたことにより、医療体制の強化が図れたことは大変心強く感謝申し上げます。今後とも安心して暮らせ、災害に強い町づくりをめざし着実に進めてまいります。



#### \*牟岐町・福井 雅彦 町長

近い将来、必ず来る南海トラフ地震に対し、一人でも多くの人命を守るため最大限の備えを計画的に行っています。しかし、過疎化・少子高齢化の進行と相まって、災害対応力の衰えを感じています。そのような中、AMDAとの協定締結は心強くありがたいものです。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



### 自治体との連携協定実績

2013.9.10	総社市、公立大学法人岡山県立大学 (三者連携協定)
2014.8.30	丸亀市、総社市 (三者協定)
2014.12.26	高知県
2015.2.2	高知県高知市
2015.2.2	高知県須崎市
2015.2.2	高知県黒潮町
2015.2.3	徳島県、株式会社阿波銀行 (三者協定)
2015.2.3	徳島県美波町
2015.4.13	徳島県阿波市 (施設使用に関する協定)
2015.8.12	徳島県美馬市
2015.10.8	徳島県 (国際医療救援活動の支援に関する協定)
2016.5.31	岡山県備前市
2016.7.4	岡山県和気町
2016.12.21	岡山県赤磐市
2017.5.30	徳島県阿南市
2017.5.30	徳島県海陽町
2017.5.30	徳島県牟岐町

## 役員変更につきまして

本年6月30日の任期満了をもって、成澤貴子理事長が退任し、7月1日より菅波茂理事長が就任いたしました。また、難波比加理理事が新規就任しました。

### 【お礼の言葉】

6月30日の任期満了をもちまして、理事長の任を終えることができました。2期3年8か月の在任期間中にいただきました皆様からのご支援ご協力に心より感謝申し上げます。

AMDA 創立者であり前理事長である菅波が7月より理事長に戻りますので、皆様にはなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

6月30日

成澤 貴子

### 2017年4月～6月の動き

〈講演〉	内 容	主 催
5月12日 6月6日 6月16日 6月17日 6月23日	聖ジュリーの日の講演 ボランティア講演会 AMDAの活動を知ろう HuMA 設立15周年記念講演 国際について	清心女子高校 岡山県立津山東高等学校 おかやまコープ新見センター NPO 法人 HuMA 岡山県立玉島高等学校
〈大学講義〉	内 容	学校名
5月16日、5月30日 6月19日	国際社会の現状と災害看護の概要 災害看護について	玉野医療専門学校 順正看護学校
〈イベント開催および参加、協力〉	内 容	
6月3日	AMDA 連携のとろ農場 田植え体験	
〈AMDA 高校生会活動〉		
4月3日 4月23日、5月21日、6月25日 5月13日、14日	ペルー洪水緊急医療支援活動に対する街頭募金活動 定例会 ザグフェス2017	
〈連携協定調印〉		
4月24日 5月15日 5月30日	欧州日本人医師会 ムネ製薬株式会社 阿南市、牟岐町、海陽町	

#### 事務局よりお知らせとお願い

※多くの皆様からのご寄付、本当にありがとうございます。お名前の記載の誤りなどがございましたら、恐れ入りますが事務局までお知らせください。

※書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。



募金の協力を呼びかける AMDA スタッフ

## スリランカ平和構築活動への協力呼び掛け募金活動を行いました

7月3日、岡山市内でユニホーム姿の本部職員ら14人がスリランカでの平和構築活動に協力を呼び掛ける募金活動をしました。

岡山駅西口東西連絡橋で、平和構築活動の写真パネルを手に、活動内容や趣旨を記したチラシ約200枚を通りかかる方々に配布し、募金を呼び掛けました。

市民からは「暑い中、ご苦労さまですね」と労いの言葉とともに、快くご寄付に応じていただきました。

平和構築活動は現在 AMDA 中学高校生会が中心になって実施しています。内戦が26年間続いたスリランカで停戦が合意された翌年の2003年、初めて同国を訪問。2009年の終戦後も民族間の融和をめざし断続的にスポーツ・文化交流を行い、大きな潤滑油の役割を果たしています。今年も8月2日から10日まで訪れます。



多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



タイ モンフォート高校様



絃伶会様



アライブ岡山様



倉敷アカデミックウインズ様

## AMDA・総社市・野口健 合同チーム

# 九州豪雨被害で 緊急支援

福岡、大分県を襲った記録的な豪雨は、死者、行方が分からない人が多数でるなど、大きな被害をもたらしました。

総社市と AMDA などによる合同緊急支援チームは6日、総社市役所を出発。甚大な被害を受けた福岡県朝倉市の避難所となっている小・中学校など数カ所を回り、現地の状況を調査し、地元自治体と協力して、支援物資を寄贈しています。

現地の避難所では脱水、熱中症の発生が懸念されています。今後も局地的な豪雨の恐れがあるため、AMDA は地元の要請があれば、すぐに対応できる体制を整えています。



総社市役所での出発式の様子

■ AMDA からの派遣者  
三宅孝士 / 理学療法士・調整員 / AMDA 南海トラフ災害対応プラットフォーム災害対策副本部長 / 赤磐市役所職員

(赤磐市と AMDA との連携協力協定に基づき、4月より2年間の予定で AMDA 本部に出向中)

松永健太郎 / 調整員 / AMDA 本部職員

## ♪ 音楽を通じたご支援 ♪

倉敷アカデミックウインズ様が、6月4日お子さん向けの第9回わくわくコンサートを開催されました。その中で団員の皆様が AMDA へのご寄付を募っていただきました。

あなたも指揮者コーナー♪ではお子さんも指揮者体験をしたり、楽しい音楽・ダンスにご来場の方々が楽しめました。